

第720回 新潟放送番組審議会 議事録

— 議 題 —

TBSテレビ全国ネット番組「news23」内 特集

「夜泣きに悩む母親の居場所」

に関する意見交換

令和8年 9月24日

BSn新潟放送

第720回 新潟放送番組審議会

1. 開催日時 令和8年 9月 24日（木）午前11時から

2. 開催場所 BSN新潟放送 本社6F会議室

3. 委員の出席

○ 委員側出席者 (敬称略・順不同)

委員長	馬 場 省 吾	委 員	太 田 勇 二
委 員	倉 田 亮	委 員	馬 場 幸 夫
委 員	石 坂 智 恵 美	委 員	三 井 田 由 香
委 員	大 橋 未 来 子	委 員	大 橋 大 河

○ 審議番組事前レポート提出者

副委員長 佐 藤 元

○ 放送事業者側出席者

社長	島 田 好 久
取締役	小 湊 潤 （編成業務局担当役員）
報道制作局長	吉 井 秀 之
番組説明員	工 藤 淳 之 介 （アナウンス部 / 取材・制作担当）
事務局長	間 瀬 学 （編成業務局長）
事務局	品 田 泰 （編成業務局テレビ編成部長）

4. 議題

- | | |
|--------|--|
| 1 報告事項 | 10月のネット単発番組並びに自社制作番組(テレビ・ラジオ)について |
| 2 審議番組 | テレビ番組「news23」内 特集「夜泣きに悩む母親の居場所」
放送日：2026年7月24日（金） |

5. 議事の概要

島田社長の挨拶に続き、編成業務局および報道制作局の各担当者より、10月の改編新番組、ネット単発番組、テレビ・ラジオ自社制作番組についての報告が行われた。続いて、7月24日に「news23」内で全国放送されたBSN制作の特集「夜泣きに悩む母親の居場所」についての審議が行われた。

～番組審議委員の主な意見～

- 地方局の特集が全国ネットのニュース番組でピックアップされるのは珍しく、BSNの日頃からの社会問題に対する真摯な取材姿勢が評価された結果だと思う。
- 産後うつや夜泣きの問題について、医師や現役子育て世代である工藤アナウンサーの丁寧な説明があり、子育てに直面していない年代や立場の人にも「社会全体の問題」として分かりやすかった。
- ヨナキリウムの取り組みをただ紹介するだけでなく、利用者が少ない点や赤字経営といったビジネスモデルとしての課題、運営の厳しさにも踏み込んでおり、見応えのある内容だった。
- 産後うつによる自殺が妊産婦の死因で最も多いという事実には驚かされた。行政のサービスが届かない夜間に母親たちの居場所を提供し、孤立を防ぐ取り組みは非常に意義深い。
- 番組内で「すっぴんで駆け込んでくる」というナレーション表現があったが、公共の電波でのジェンダー的表現としては少しギリギリではないかと感じた。
- 育児の大変さだけでなく、こどもの笑顔や愛おしさなど、子育ての幸せな面ももう少し伝えてほしかった。
- ビジネスコンテストでの受賞について、どのような点が評価されたのかももう少し踏み込んだ解説が欲しかった。
- 行政だけに頼らず、地域の企業がスポンサーになったり、社会全体で子育てを支える仕組みづくりが必要だと感じさせられた。

～制作・取材担当 工藤淳之介より～

貴重なご意見を賜り、誠にありがとうございました。本企画は、私自身の第2子の夜泣きによる育児経験がきっかけで生まれました。滝沢代表の熱い思いに触れ、自身の実体験も交えて社会に伝えたいと制作しました。

ビジネス面での課題や厳しい現状については、宣伝ではなく、必要性和課題の両方を伝えたいということで、あえて厳しい数字を出して放送しました。尺の都合上、母親たち一人ひとりの背景や、ビジネスコンテストでの受賞理由など、紹介しきれなかった部分に関しては後日紹介できればと思っております。合わせて産後鬱の問題ですが、実は男性も女性に近い割合で悩んでいる方がいます。今回はそこまで掘げられなかったのですが、この課題も機会があれば伝えていければと思っております。

スタジオの「すっぴん」という表現については、余裕のない母親たちのリアルな現状を伝えるため、TBS側と相談の上であえて使用しました。今後は、住宅展示場での開催や別エリアへの展開など、ヨナキリウムの新たな動きも継続して取材し、ゆくゆくは30分の番組として深掘りしていきたいと考えております。

【文責：番組審議会事務局】